

【修斉校区】  
学校適正化に向けた校区懇談会  
(第1回)



# 修斉校区 学校適正化に向けた校区懇談会について

## 【懇談会の設置目的・位置づけ①】

実施計画(第1期)(案)で示す(仮称)葛城小中一貫校の内容について、これまでの説明会等で地域の皆様からいただいたご意見の中から、疑問や懸念される事項等を取り上げ、それらの解消を図るための意見交換及び共通の認識を持つ場です。

## 【懇談会の設置目的・位置づけ②】

計画(案)を推進していくための会議ではなく、まずは地域・保護者代表の皆様引き続き十分な説明を行い、疑問・懸念等について協議・話し合いを行い、共通の認識を持つ場です。

## 【懇談会の開催日程・設置期間】

開催日程については、懇談会メンバーの皆様と調整の上、決定していきます。設置期間については、今後の話し合いの状況を踏まえて判断します。

# 修斉校区 学校適正化に向けた校区懇談会について

## 【懇談会メンバーの氏名や発言内容等の取扱い】

氏名等、個人情報公表は行いません。  
ただし、懇談会での話し合いの内容を広く市民の方にも周知するため、発言内容により個人が特定されない形で会議概要をとりまとめ、会議資料とともに市のホームページで公開する予定です。

## 【懇談会における話し合い内容の取扱い】

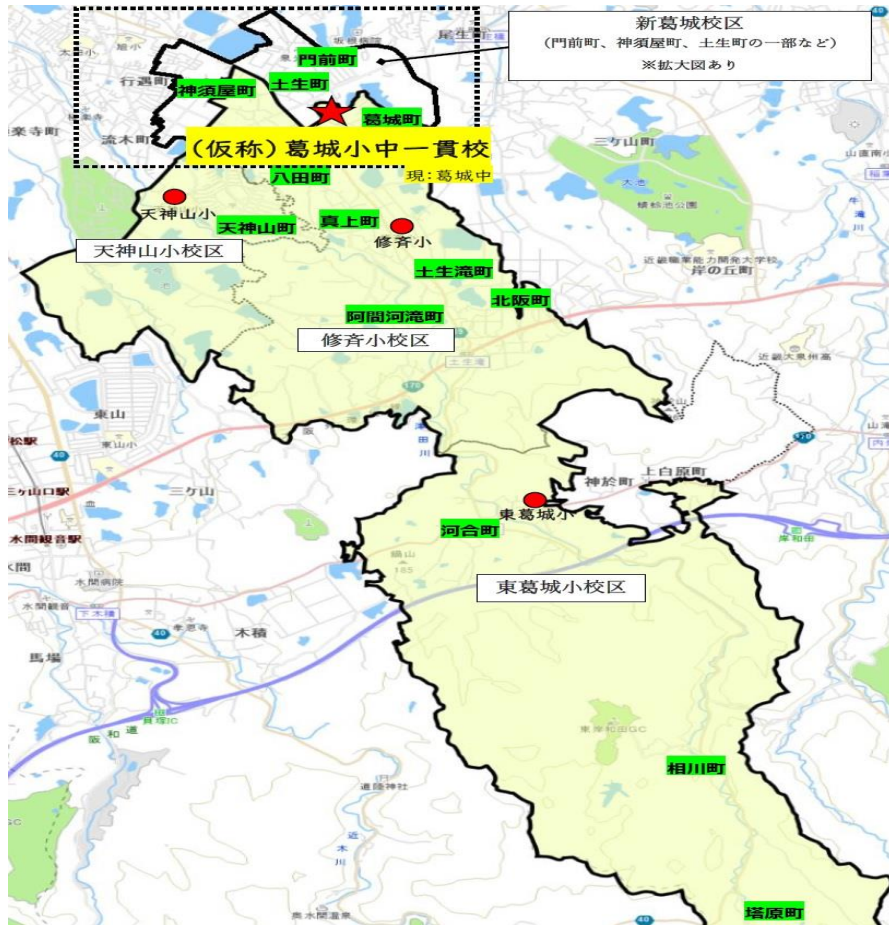
懇談会は、地域・保護者の皆様との意見交換の場と位置付けており、意思決定を行う場ではありません。今後の方向性については、懇談会での話し合いの内容を踏まえ、市と教育委員会で判断していきます。

## 【懇談会メンバー以外の地域住民のご意見について】

市ホームページにおいて、学校再編に関するご意見・ご質問について随時受付を行っております。いただいた内容については、市・教育委員会の考え方とともに公開いたします。当懇談会の会議概要についても公開し、それに対するご意見等も承ります。

# (仮称)葛城小中一貫校の概要

## 【新たな校区(案)】



**【(仮称)葛城小中一貫校】**  
**※葛城中学校敷地を活用**

葛城中学校

修斉小学校

東葛城小学校  
(河合・相川・塔原町)

天神山小学校

常盤・旭・太田校区の一部地域

# (仮称)葛城小中一貫校の概要

## 【新たな学校(案)の児童生徒見込数・学級数】

### (小学校部)

年度	R10	R11	R12	R13	R14	R15
校名	児童見込数	児童見込数	児童見込数	児童見込数	児童見込数	児童見込数
天神山小	110	111	110	111	110	113
修斉小	137	142	135	139	136	139
東葛城小 (河合、相川、塔原)	32	34	37	35	37	36
常盤小 (門前)	91	89	90	87	87	88
旭小 (神須屋、土生)	82	82	80	82	84	82
太田小 (神須屋)	20	21	20	20	21	20
<b>合計児童見込数</b>	<b>472</b>	<b>479</b>	<b>472</b>	<b>474</b>	<b>475</b>	<b>478</b>
<b>学級見込数</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>18</b>

### (中学校部)

年度	R10	R11	R12	R13	R14	R15
校名	生徒見込数	生徒見込数	生徒見込数	生徒見込数	生徒見込数	生徒見込数
葛城中	178	157	153	140	149	140
桜台中 (門前)	69	56	51	49	47	47
土生中 (神須屋、土生)	44	46	50	51	50	48
<b>合計生徒見込数</b>	<b>291</b>	<b>259</b>	<b>254</b>	<b>240</b>	<b>246</b>	<b>235</b>
<b>学級見込数</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>8</b>	<b>8</b>	<b>7</b>	<b>8</b>

# (仮称)葛城小中一貫校の概要

## ◎小学校と中学校を同一敷地内に設置する施設一体型小中一貫校

小・中の教職員が同じ「めざす子ども像」を共有し、義務教育9年間の連続した教育活動を展開する小中一貫教育をより効率的・効果的に実践していきます。

## ◎小⇄中の教員による「相互乗り入れ指導」を実施

教育内容に対する小中の相互理解を通して、小学校から中学校への段差のない移行に対する教員の意識を高めます。

## ◎「教科担任制」を導入

小学校高学年からの「教科担任制」導入により、専門的な学習の積み重ね、学力や学習意欲の向上につなげます。

# (仮称)葛城小中一貫校の概要

【施設一体型小中一貫校】の特徴を活かした  
先進事例の取組では

- ◎4-3-2制の導入など、児童生徒の発達段階に応じ、学年段階の区切りを柔軟に設定
- ◎小学校高学年から50分授業の実施
- ◎小学校高学年から部活動への参加
- ◎運動会の合同実施、ランチルームで交流しながらの食事等、異学年交流充実の取組



(仮称)葛城小中一貫校における具体的な取組については、今後、他市の好事例等を参考にしつつ決定していきます。

# (仮称)葛城小中一貫校の概要

## ◎「特認校制度」の実施を検討

特認校…住んでいる校区に関わらず、市内全域から通うことができる学校  
⇒他の校区から児童生徒が集まることで、子どもたちが多様な考えに触れる機会を創出していく。

## ◎「特認校」での取組事例

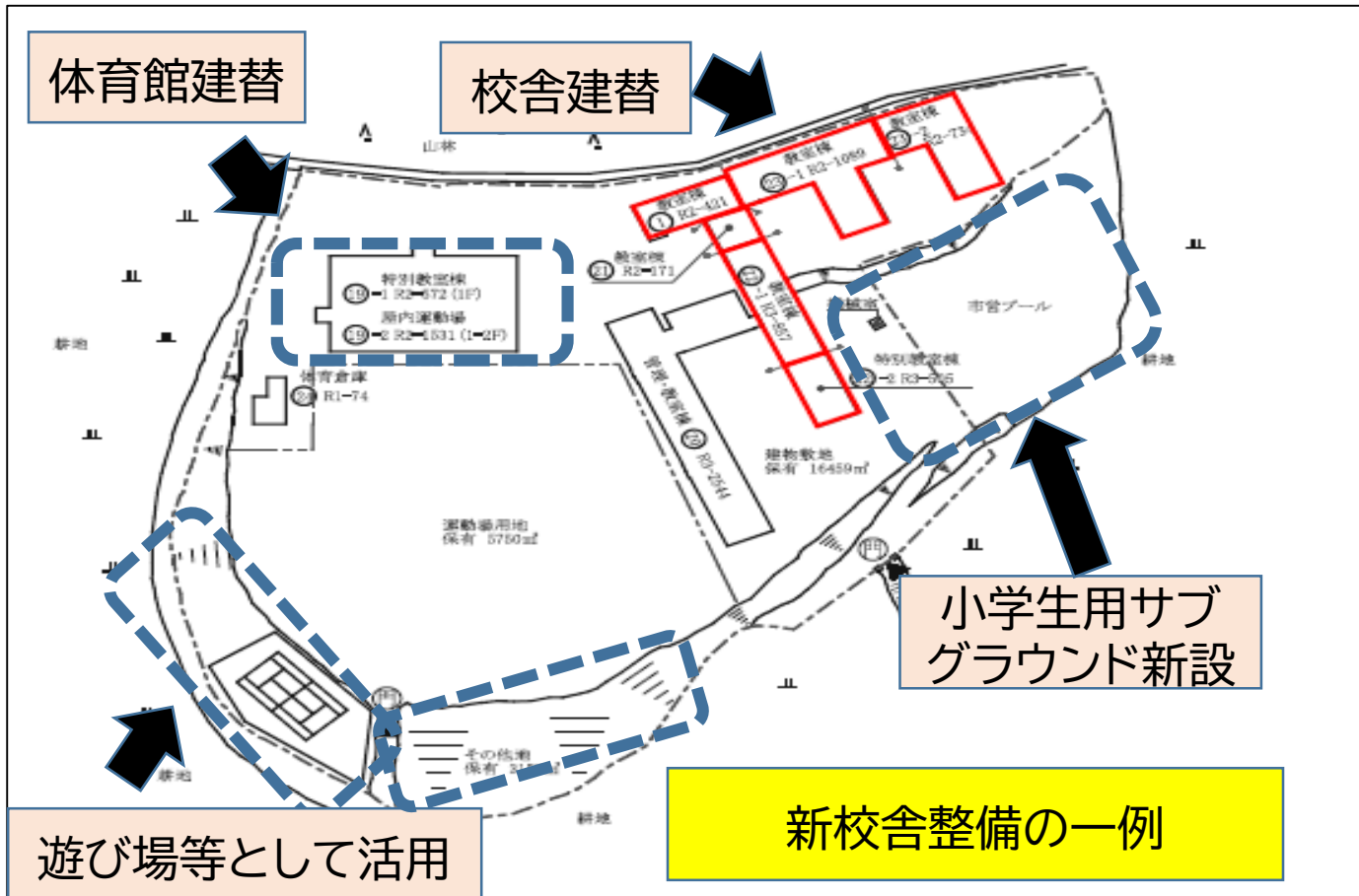
- 近隣住民の協力のもと、自然を活かした様々な体験学習を展開したり、地域の歴史や文化について学ぶ。
- 大学等と連携し、英語・体育・ICT等、分野に特化した教育活動を展開する。



# (仮称)葛城小中一貫校の概要

◎老朽化した校舎・体育館を建替

◎葛城プール敷地を小学生用サブグラウンドとしての整備を検討



校舎のレイアウトや設計図等、具体的な検討については、今後、(仮称)学校開校準備委員会において、地域・保護者・学校関係者の皆様とともに行っていく。

# (仮称)葛城小中一貫校の概要

## ◎小中一貫教育を効果的に行うための施設整備を検討



小中共用図書室(つくば市春日学園)



ランチルーム(和泉市南松尾はつがの学園)



小中合同の職員室(つくば市春日学園)

異学年交流を促進



1階中央の異学年交流の場(京都市花背小・中学校)

教員間の情報連携や  
交流がスムーズに



# (仮称)葛城小中一貫校の概要

## ◎文部科学省が示す「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」を踏まえ整備

### 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）

#### 【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

##### 学び

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現
- ⇒ 1人1台端末環境等に対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教室環境の整備
  - ⇒ 個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備
  - ⇒ 教職員のコミュニケーション・リフレッシュの場（ラウンジ）、映像編集空間（スタジオ）の整備

（教室・教室周辺の空間の改善・充実に関する創意工夫の例）



1人1台端末環境等に対応したゆとりある教室の整備



多目的スペースの活用による多様な学習活動への柔軟な対応



ロッカースペース等の配置の工夫等による教室空間の有効活用

##### 生活

- 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現
- ⇒ 居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）
  - ⇒ 空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

##### 共創

- 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現
- ⇒ 地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出
  - ⇒ 地域の実情等に応じた他の公共施設等との複合化・共用化等

#### 【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

##### 安全

- 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現
- ⇒ 老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
  - ⇒ 避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

##### 環境

- 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現
- ⇒ 屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進
  - ⇒ 環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告(概要)【文部科学省】より抜粋





# (仮称)葛城小中一貫校の概要

◎文部科学省が示す「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」を踏まえ整備

新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）

これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造していく



単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・commons」としていく姿



教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿



映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿



木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿



長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿



省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

# これまでの地域説明会等でいただいたご意見について

## Q通学路の安全を確保できるのか？

安心・安全な通学環境を保障することは教育委員会の責務です。  
新たな通学路の設定にあたり、地域・保護者の方々とともに安全上の検証を十分に行い、道路関係部局や警察等とも連携し、必要な対応を行うことで、通学の安全を確保します。

## Qスクールバスの対象範囲は？

〇km以上といった一律の基準は設けずに、地域の地理的条件を踏まえるとともに、他地域との均衡にも配慮しながら、地域・保護者の皆様との協議の上決定していきます。運行ダイヤや乗降場所といった具体的な運用についても、地域・保護者の皆様のご意見も踏まえ決定していきます。

## Qスクールバスの保護者負担は？

スクールバスについては公費による運営を考えているため、保護者の負担はありません。

# これまでの地域説明会等でいただいたご意見について

## Qなぜ、施設一体型小中一貫校にするのか？

施設一体型小中一貫校では、義務教育9年間を通して小中の教員が子どもたちを見守ることができるため、つまづきや課題が生じた場合速やかに情報共有でき、支援体制が作りやすくなるとともに、教職員間に一体感が生まれることで、学校の運営がよりスムーズになります。

また、異学年の交流機会を多く確保できるとともに、より多くの教職員が子どもたちと関わるができるため、子どもを多角的・多面的に見守ることが可能となり、児童・生徒の安心感につながるものと考えています。

加えて、「異学年交流」や「相互乗り入れ指導」等を行う際も、施設間の移動がないため、児童生徒、教員の負担軽減につながります。

これらのことを踏まえ、小中一貫教育をより効率的・効果的に実践するためには、施設一体型小中一貫校は利点が大きいと考えており、葛城中学校区及び周辺校区における、学校の規模や配置バランスを考慮した上で、施設一体型(仮称)葛城小中一貫校の設置が望ましいと判断しました。

# これまでの地域説明会等でいただいたご意見について

## Q小中一貫校ではチャームをどうするのか？

先進事例では、休憩時間を調整し、授業開始時間を小中で合わせる工夫が見受けられます。  
(小学生は15分休憩、中学生は10分休憩、授業終了時はノーチャーム)

和泉市南松尾はつがの学園の例

	前期課程	後期課程
1限目	8:45~9:30	8:45~9:35
2限目	9:45~10:30	9:45~10:35
3限目	10:45~11:30	10:45~11:35
4限目	11:45~12:30	11:45~12:35
給食	12:30~13:10	12:35~13:10
昼休み	13:10~13:25	13:10~13:25
清掃	13:25~13:35	13:25~13:35
5限目	13:40~14:25	13:40~14:30
6限目	14:40~15:25	14:40~15:30
終わりの会	15:25~15:35	15:30~15:40
下校	16:00	

## Q中学生のテスト期間中、小学生は静かにしないといけないのでは？

先進事例では、学年ごとの授業運営等に配慮し、普通教室は小・中別棟式にする等の工夫が見受けられます。

一方、高学年の小学生に対しては、テストのさまたげにならない過ごし方を伝えることで、自身が中学生になった際の心構えも身に付けさせることができるといったことも伺っています。



# これまでの地域説明会等でいただいたご意見について

## Q小学生が中学生を怖がらないか？中学生が小学生をいじめないか？

視察先の学校では、小学校低学年から中学生までが同じ施設で学ぶことにより、小学生は中学生を良き見本とし、中学生は小学生の世話をすることで、良い関係が育まれているというお話を伺っています。

普段から異学年の交流行事を多く取り入れることにより、思いやりや憧れの気持ちが自然と芽生える教育環境をめざします。

### ● 4・9交流「よろ4・9先輩の会」



9年生は、4年生の目標達成に向けて自ら貢献することを通して、自己存在感を実感することを、4年生は、自らの目標に向かって努力することで自己の成長に気付くことを目指しています。

### ● 5・7交流「職場体験発表会」



7年生は5年生に分かりやすく説明することで、先輩としての自覚を持ち、職場体験における学習を深めることを、5年生は自身の職場訪問に7年生からの学びを生かすことをねらっています。

### ● 3・8交流「校区ふしぎ発見」



校区内をフィールドワークする活動を異学年で行っています。8年生は、3年生のために働こうとする気持ちを持ち、グループリーダーとして手本・見本となることを目指し、3年生は、自分の思いを8年生にはっきり伝えることを目指しています。

例えば、「4・9交流」の最後の感想(抜粋)には、異学年での関わりから自分を深く見つめた表れが見られます。

私たちも4年生のとき9年生の人たちに、お世話になったことを思い出しました。少し恩返しできた気持ちになりました。



9年生になるとき、同じやさしい9年生になりたい。

呉市呉中央学園 異学年交流の取組事例

## Q小中一貫校になると、中学校の授業内容を小学校で先取りするのか？

小中それぞれの教員が、互いの授業内容のつながりを意識して指導しますが、中学校の授業内容を小学校で先取りして指導することはありません。



# これまでの地域説明会等でいただいたご意見について

Q小学生と中学生では体格も全然違う。施設面の安全性に問題はないのか？

体格差や学年区切りに応じた校舎整備を図るとともに、屋外活動では低学年用の遊具スペースや、サブグラウンドを整備し、部活動時や休み時間の動線を区別します。



机高が可変できる理科室(佐賀市小中一貫校北山校)



低学年用の芝生広場(飛島村飛島学園)



高さの異なるバスケットゴール(京都市京都大原学院)

Q小学生のリーダー性が養われないのでは？心機一転が図れないのでは？

先進事例では、4年生の1/2成人式、6年生のステージ進級式、7年生の立志式等の取組により、学年の区切りを意識させる工夫が見受けられます。

また、普段からの異学年交流により、リーダー性の育成も自然と図られるということも伺っています。

# これまでの地域説明会等でいただいたご意見について

Q閉校になる学校跡地はどうするのか？

他市の事例では、地域防災・複合交流施設、子ども教育支援施設、地域交流施設、認定こども園、レストランや宿泊施設等、学校跡地の活用事例は様々です。  
今後、地域の皆様のご意見も踏まえ、幅広い視点から有効に利活用される方策を検討します。

Qこれまでの小学校単位の地域コミュニティはどうなるのか？

市民協議会の活動等、地域コミュニティのあり方については、学校再編の取組に左右されることなく、地域の皆様による主体的な判断を尊重した上で、引き続き、市長部局と連携してその活動を支援していきます。

Q今後の話し合い(当懇談会含む)の中で計画(案)の修正や変更はあり得るのか？

今後の話し合いの中で、子どもたちにとってより良い教育環境の整備に資する方策がさらに見出され、またそれが広く市民の賛同を得られる内容については、実施計画(案)に取り入れ、必要な修正や変更を行った上で、より良い計画案を策定していきます。

## 修斉校区地域説明会等で主にいただいたご意見について

Q泉州山手線の整備により、今後修斉地区の人口も増えるはず

市長部局からは「泉州山手線沿道のまちづくりの方針」が示されているものの、修斉校区を含む葛城の谷地域における泉州山手線整備の具体的な着工時期や計画期間が未定のため、現時点で児童生徒の増加を見込むことは困難です。  
今後の新たなまちづくりの計画については、担当部局と連携し、随時その把握に努めます。

Q北阪町から葛城中まで歩いて50分、土生滝交差点からも危険箇所が多い。また葛城中周辺にはスクールバスの乗降場所がない。バス利用による体力不足も心配である。安心・安全な通学環境をどう確保するのか？

スクールバスの導入範囲や乗降場所等の詳細については、地域・保護者の皆様のご意見も踏まえ決定していきます。  
また、危険個所の把握については、(仮称)学校開校準備委員会において地域・保護者の皆様とともに検証し、必要な対応を行うこととします。